

原子力施設の運転状況

試験研究用原子炉と研究開発段階の原子炉

試験研究用原子炉の事故・故障・トラブル統計

昭和59年度試験研究用原子炉における事故・故障

<概要>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」の規定に基づき、昭和59年度に報告がなされた事故・故障の件数は4件であった。これら4件の事故、故障等を管理要素別に分類すると、保守管理が不適切であったものが2件、操作が不適切であったものが1件、その他1件であった。

<更新年月>

1999年08月 （本データは原則として更新対象外とします。）

<本文>

「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」（以下、「原子炉等規制法」という。）の規定に基づき、昭和59年度に報告がなされた事故・故障等の件数は4件であった。これら4件の事故、故障等を管理要素別に分類すると、保守管理が不適切であったものが2件、操作が不適切であったものが1件、その他1件であった。また、これら4件の事故・故障等の内訳は、運転中に発生したもので自動停止したものが3件で、手動停止したものは1件であった。自動停止した3件の内訳は、試験中の出力変動の予測不備によるもの1件、冷却ポンプの不具合によるもの1件及び温度調節弁の不具合によるもの1件であった。手動停止した1件は、制御棒駆動系の不具合によるものであった。

なお、以上のいずれの事故・故障等においても原子炉施設周辺環境への影響はなかった。この他、昭和56年9月1日付け科学技術庁（現文部科学省）長官通達に基づき、報告のあった軽微な故障が4件であった。

昭和59年度の試験研究用原子炉及び研究開発段階にある原子炉における故障・トラブル等についての概要を表1に示す。

（原子炉等規制法に基づく報告）

<関連タイトル>

原子力施設の故障・トラブル・事故の国際評価尺度 (11-01-04-01)

昭和59年度試験研究用原子炉における従事者被ばく状況 (12-03-03-06)

<参考文献>

(1) 原子力安全委員会編（1985）：昭和59年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和60年版原子力安全白書、350。

(2) 科学技術庁原子力安全局編（1985）：昭和59年度の試験研究用原子炉及び研究開発段階にある原子炉における事故・故障等について、原子力安全委員会月報6月号、通巻81号、47。

表 1 昭和59年度の試験研究用原子炉施設及び研究開発段階にある原子炉施設における故障・トラブル等についての概要

発生年月日	原子炉施設名	故 障 ・ ト ラ ブ ル 等 の 概 要
59. 6.28	動燃新型転換炉 ふげん発電所	定期自主検査において調整運転中、炉心特性試験のため、原子炉再循環ポンプの速度を低速から高速に切り替えたところボイドの消滅による出力変動が予測された値より若干大きくなったため、安全回路の領域出力装置高信号に起因して再循環ポンプ流量低低1信号が発生し、原子炉は、自動停止した。
59.10.24	原研東海研究所 JRR-2	定格出力10MWで運転中、制御棒1本が制御棒駆動系の電磁石回路の断線により炉心に落下し、原子炉は未臨界状態になったため、手動停止した。
59.11.19	原研東海研究所 JRR-2	定格出力10MWで運転中、主重水ポンプの冷却回路の電磁弁励磁回路のコイルの短絡により、同ポンプ操作回路の電源が失われ、同ポンプが停止し、原子炉が自動停止した。
59.12.16	動燃新型転換炉 ふげん発電所	定格出力運転中、重水温度調節弁の一次的な動作不調により重水温度が上昇し、重水温度「高高」のスクラム信号により原子炉は、自動停止した。

[出典]原子力安全委員会編(1985)：昭和59年度の試験研究用及び研究開発段階にある原子炉施設における事故・故障等の概要、昭和60年版原子力安全白書、350。